

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」地域活性化・まちづくりへの応援

メッセージ

会報

NO. 83

2022.7.30発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第83回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『石碑の書価値について』

ふるさと春日井にある書碑をめぐる①

大秦景教碑にみる「呂秀巖」の書について

「石碑」は、その地域の文化的、歴史的価値をもつ重要な、資料であり、市民共通の資源財産です。ふるさと春日井には、数多くの石碑が存在します。全ては、書で揮毫された書碑です。石碑とは何か、誰がどのような理由で建碑したのか。

地域の一つ一つの石碑に刻まれた文字、文章から土地の歴史を知り、先人の知恵に学び、あわせて書の鑑賞もしながら巡って行きたいと思います。

今回は、前半は、「ふるさと春日井学」研究フォーラム 会長 河地 清氏に発表していただきました。石碑の歴史的価値、石碑を歴史的資料としたり書の価値を分析研究するための、拓本採取の方法について、ビデオ教材を見ながら解説してもらいました。後半は、拓本研究家で本会会員の川口一彦氏に、キリスト教福音協会の前に建てられた「大秦景教碑」に刻まれた「呂秀巖」の書について解説していただきました。



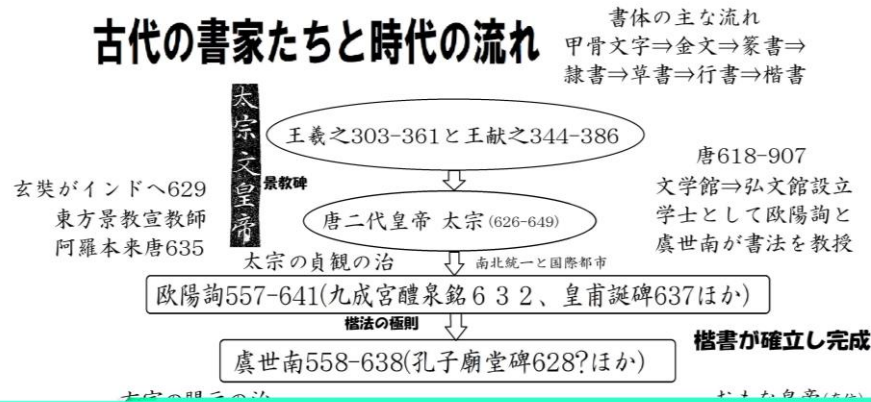
拓本の資料的価値・「金石学」について 「呂秀巖」の書について解説する川口

解説する河地 清氏

一彦氏

— 発表要旨 —

古代の書家たちと時代の流れ



古い年代順から、王羲之、欧陽詢、虞世南、緒遂良、顔真卿、呂秀巖となる。

1、王羲之 303-361(山東省の人)と王献之 344-386(羲之の七番目の末子も優秀)、草書・行書・楷書を完成させる。真筆はない。酒に酔って書いた蘭亭序 353 が最高の書となった。彼の書を別名「入木(じゅぼく)」とも言い、木版の字の墨が約9mmもしみ込んでいたとの故事がある。軍人で政治家であり別名、王右軍とも言われる。書簡には体調が悪い、寂しい、逢いたいなどと吐露している。

2、欧陽詢(557-641)は、潭州臨湘(湖南省長沙県)の人。初唐の三大家(欧陽詢、褚遂良らは中国江南の出)の一人。彼は唐(618-907)の初唐時代に生き、父が謀反で亡くなり、人生の苦を経験したが大常博士となり、弘文館学士として書を指導した。楷書が完成される時代の人、九成宮醴泉銘は楷書体で最高の傑作品(極則)と名高く、臨書手本として活用されてきた。書は厳しさの中、繊細さと柔らかさにもにじみ出て、太宗からみて仕事を任せられる第一人者といえる。北朝の書風も影響した。

3、虞世南(558-638)は、浙江省の人で王羲之の書を学び楷書・行書・草書に優れた。孔子廟堂碑 630 は楷書の典型として有名。王羲之の七世の子孫の智永から王羲之らの書を学ぶ。作品は柔らかさと強さもあるが、円みを帯びた優しさのある親しみを感じる書風といえる。

4、褚遂良(596-658)は浙江省杭州の人で王羲之の書を学び隸書の運筆法も見られる。虞世南の死後に太宗皇帝に召し出され太宗の書法顧問となり重責を担った。中書令を歴任。太宗の撰文の書「大唐三蔵聖教序」653 は今も西安慈恩寺大雁塔に残る。孟法師碑 642。代が変わると晩年は愛州(現在のベトナム中部)に左遷され亡くなる。

5、顔真卿(709-785)は西安の人。政治家で軍人。名門の顔家には能書家が多くいた。幼くして父を亡くしたが優秀で篆書、隸書、草・行・楷書などを能くし、伝統書を超えたことからもう一人の書聖とも言われる。38歳で墓誌に書く。755年に起きた安祿山の反乱で玄宗皇帝の義兵として討伐(とうばつ)に向かった。肅宗や徳宗皇帝にひたすら仕えた精神の持ち主。最後は幽閉されても自分で墓誌を作り、河南省蔡州龍興寺で殺害された。

6、呂秀巖は晩唐に生きた人。彼は書法界では無名の人物ゆえに生卒年も不明。呂の家系の先祖には秦始皇帝の父・呂不韋?-BC235 がいると言われる。碑の最後の肩書には「朝儀郎前行台州司士参軍」とあるのは浙江省台州の人で軍に参加した役人でもあった。碑には多くのペルシア人らしき人名がシリア語と共に書かれる中、彼の名にはシリア語の記述もなく、呂の家柄からみて中国人と考えられよう。本書は一貫して楷書と行書が調和した書体で型にはまらず闊達自在、力強くバランスのある流麗で優れた書で構成されている。

東晋 317-420 王羲之 303-361(山東省の人)とその末子の王献之(344-386)

隋 581-618 南北が統一され書体の融合が始まる 智永の真草千字文 597、楷書と草書の作品(智永は王羲之七代目の子孫) 唐 618 高祖・李淵(618-626)が初代皇帝即位 627頃 虞世南(558-638)の孔子廟堂碑は太宗の命で自作で仕上げた 626太宗(李世民)皇帝即位(597-649)、弘文館を興し虞世南、欧陽詢らが書法を教え王羲之作品を蒐集し真偽の見分け役として虞・欧らが立つ。635 景教宣教師らが来唐し太宗に謁見、翻訳開始。晋祠銘 646、温泉銘 648。649 太宗の棺に王羲之の書を入れる 632 欧陽詢(557-641)の九成宮醴泉銘、皇甫誕碑 637? 楷書が完成 638 景教の布教開始、全国に大秦寺が

建つ 642 褚遂良(596-658)の孟法師碑、653 雁塔聖教序 745 波斯教から大秦景教へと改称 752 顔真卿(709-785)の多宝塔碑ほか多くの作品が生まれる。正統派に反発した顔法の作品 755-763 安祿山・史思明の乱、景教徒の伊斯の活躍。顔真卿が乱の平定に義兵として参軍 781 呂秀巖(?)の大秦景教流行中國碑が長安大秦寺に建つ 845 武宗皇帝の弾圧により景教碑を土に埋め、信徒らは国外に離散 明 1368-1661 1623(5)景教碑が土(約 780 年間)から発見。欧州に伝わる。後にホルムによる盗難事件も発生 景教碑の①最初部分 ②中間の前 ③中間の後 ④末尾に分割

①

我三一化身景尊
彌施訶戢隱真威
同人出代神天宣
慶室女誕聖於大
秦景宿告祥波斯

②

景教流行中國碑
頌并序
大秦寺僧景淨述
VERBODEN TOEGANG
TO DEZELVE
PLAATSEN

③

東方之景衆也
朝議郎前行台州
司士參軍呂秀巖
書

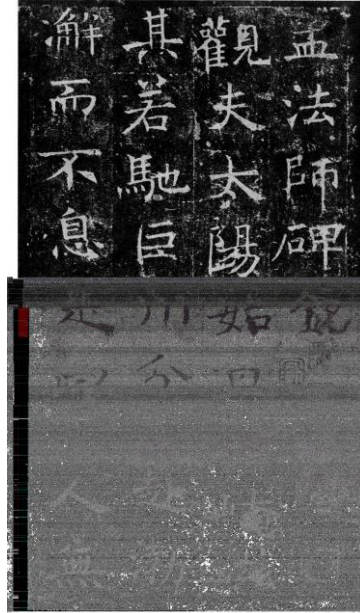
④末尾

博十全始効節於
丹庭乃築名於王
帳中書令汾陽郡
王郭公子儀初揔
式於翔方也

欧陽詢・褚遂良・虞世南の書との比較



欧陽詢の九成宮醴泉銘



褚遂良の孟法師碑



虞世南の孔子廟堂碑

<各特長> 1



<各特長> 2



まとめ

唐代の書法家たちの作品を見てきたが、多くは政治家で軍人で文化人で書に優れていた。彼らの作品が世に注目を集めることが出来たのは王羲之の書をこよなく愛し蒐集した太宗文皇帝の文化政策をもって世を治める政治的働きかけがあつてのこと。それらの書作品が我が国にも伝来し人の心を豊かにし人を育て書も育ててきた。書は人(心)であり当然メッセージが込められている。

景教も太宗文皇帝に受け入れられ国際化の中で大きく発展した。呂秀巖書の景教碑はその背景で生まれた。碑文は漢字とシリア文字によって構成された唯一のキリスト教碑で、隣人愛にあふれた流麗で優れた楷・行書体は人の心を魅了し豊かにしている。同時代の楷書作品と比べても劣ることもなく、手本の中の一つであることを覚え、推奨したいと思います。

(編集：文責 河地 清)

OPINION

「石碑」は、その地域の文化的、歴史的価値をもつ重要な、資料であり、市民共通の資源財産です。ふるさと春日井には、数多くの石碑が存在します。全ては、書で揮毫された書碑です。石碑とは何か、誰がどのような理由で建碑したのか。

地域の一つ一つの石碑に刻まれた文字、文章から土地の歴史を知り、先人の知恵に学び、あわせて書の鑑賞もしながら巡って行きたいと思います。

碑とは、後世に伝えるために石に文字を刻んで建てたものを指す。

「いしぶみ」「たていし」などとよばれる。中国では「方なるを碑、円なるを碣」と言う。碑は「いかなる功績をのこした人の碑か、誰が書いたのか」を知ることができる。

「碑」の歴史的価値を知る。

人間の営みの証である「碑」も保護、保存してゆかなければ、やがて草むらに埋もれ、ただの路傍の石と化していってしまいます。※(写真)は、平成30年10月和爾良神社八百年祭事業の際に上条地区の人々が掘り起こし大日社(和爾良神社御旅所)境内に移設されました。「道風橋」と揮毫された立派な石碑でした。上条用水の側溝に永い間放置されたままでした。私も何度か行政に調査を依頼したことがありました。誰が書いたか、どうして「道風橋」なのか、そこにどんな伝承があったのか等々地域の人たちにも不明な点が沢山あります。それを究明して行くことが後世に歴史を継承して行く大切な作業です。

(文責：河地 清)



[mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索